

坂田山共生の森

自然観察マップ

坂田山共生の森は市街地に近く、地域に親しまれている身近な里山です。
また、散策や自然学習の場として多くの市民に利用されています。



銃座付近の桜



「坂田山共生の森」は、
「NPO法人坂田山共生の森を愛する会」の
みなさんによって護られています。

お問い合わせは

NPO法人坂田山共生の森を愛する会

e-mail: sakatayama@stvnet.home.ne.jp

http://members.stvnet.home.ne.jp/st0353307/

須坂市産業振興部 農林課

phone・026-248-9004

e-mail: s-nourin@city.suzaka.nagano.jp

このパンフレットは3,000部印刷し、1部あたりの単価は約20円です。 2021年11月作成

坂田山の草花

坂田山にはたくさんの草花が咲いています。
見つけたら□に✓をしましょう!!

イカリソウ (♣4~5月)

花の形が船の錨(いかり)に似ていることから付けられました。葉は左右対称でハート型。生育地は落葉樹林の中・林のふちなど。花の色は淡い紫色から淡い赤紫色。坂田山ではやや標高の高いところで見られ、水ノ入り地籍では群生しています。

スミレ (♣4~5月)

花が大工さんが使うスミイレ(墨つぼ)に似ているからすみれと呼ばれるようになりました。草丈5~15cm、野原・丘陵地などに生育する多年草。花の色は紫色から濃い赤紫色。坂田山・坂田たんぼで普通に見られます。

イチリンソウ (♣4~5月)

語源は1本の茎に1輪の花をつけることから。地下茎で群がってふえる多年草。生育地は丘陵地の草地・山地のひだまり・林のふちなど。坂田山ふれあい広場入口付近に群生しています。

ヤマブキ (♣4~5月)

低木。花は鮮やかな黄色。がく片は5、花弁も5枚で黄色。バラ科のヤマブキは5弁の花ですが、ヤマブキソウのほうは4弁で、花も大きめ。坂田山全山で見られますが坂田神社周辺・見晴らしの丘に多く見られます。

ガクアジサイ (♣6~7月)

花序の周辺に装飾花があり、中央部は両性花になっています。花色は青・桃・白など。平成15年に青色のガクアジサイが大星・小和合地籍に植えられました。

ノコンギク (♣8~11月)

野山にごく普通に見られる多年草。茎は高さ50~100cm。夏から秋にかけて、茎の先端に多数花をつけます。花は舌状花で径2.5cm。坂田山では全山で見られますが、日当たりの良い作業道周辺でよく見られます。

ワレモコウ (♣8~11月)

日当たりの良い山野に生える多年草。茎は高さ70~100cmになり、8~11月にかけて、枝先に暗赤色の短い円筒状の花穂をつけます。坂田山では日当たりの良い大星の作業道周辺で見られます。

ツリフネソウ (♣9月)

細い花柄にぶらさがる花の形を、船に見たててつけられた名前。坂田山ではふれあい広場入り口付近の沢沿いに生い茂っています。

アキノキリンソウ (♣9月)

黄色の小さな花が穂のように咲く、秋を代表する山野草です。草丈40~80cm。坂田山では日当たりの良い作業道周辺で見られます。



竜の割石は大人気アニメに登場する巨大な岩に似ているため、観光スポットとなっています。

坂田山の昆虫

坂田山にはたくさんのおもしろいところがあります。
見つけたら□に✓をしましょう!!



国蝶オオムラサキ

紫色の大型の蝶。オスの翅の表面は光沢ある青紫色で美しい。メスはオスより一回り大きい。翅に青紫色の光沢はなく、こげ茶色をしています。幼虫はエノキやエゾエノキ、成虫はクヌギやコナラなど広葉樹の樹液に集まります。大星のオオムラサキ飼育園で見られます。



カブトムシ

夜間から夜明けにかけて活動し、クヌギなどに樹液を求めて集まります。鎌田山のクヌギ林やオオムラサキ飼育園で見られます。



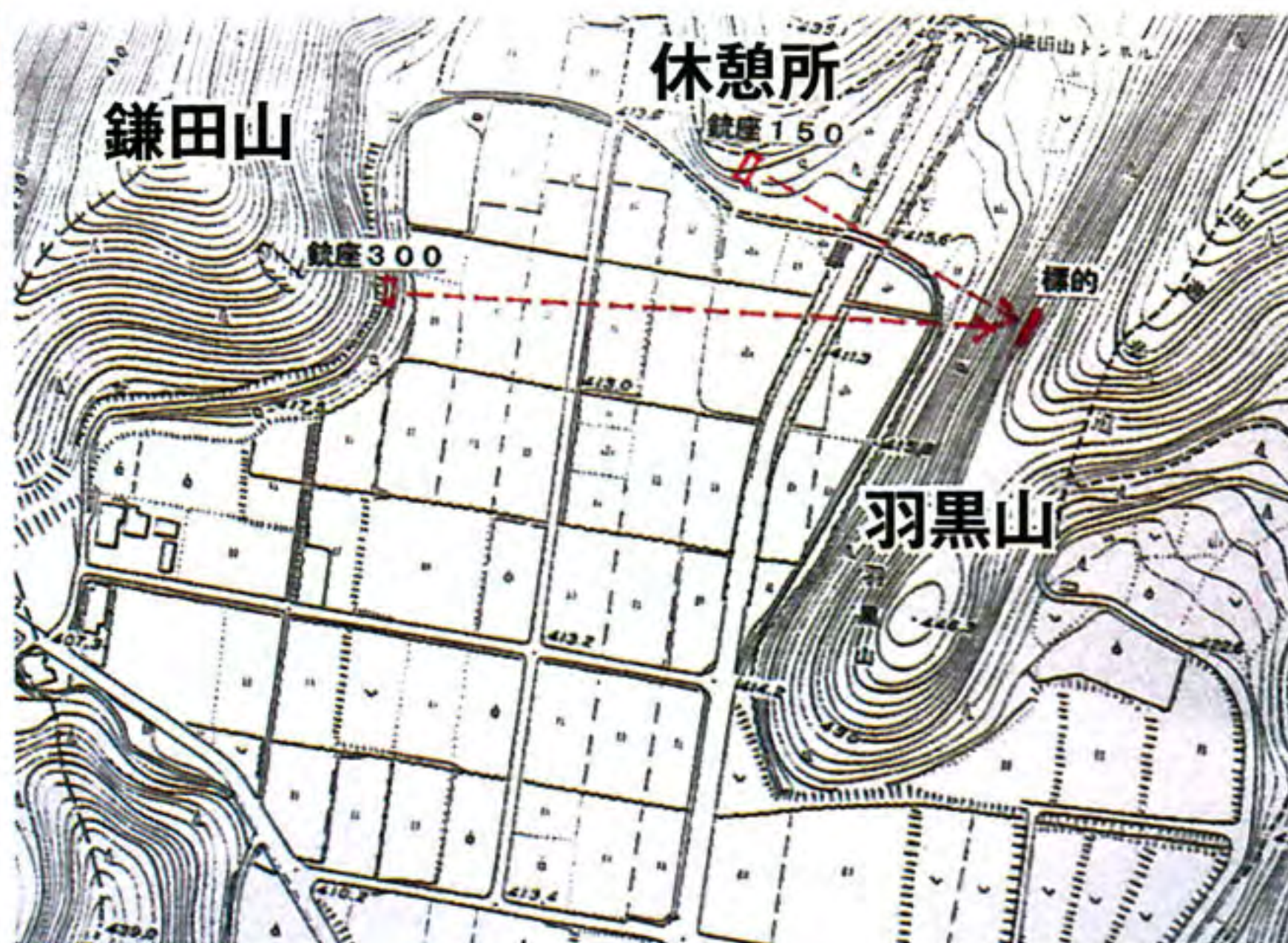
カモシカ

和合峠・竜の割石周辺・ふれあい広場周辺・常盤中学校の山際に生息しています。クマと見間違えないように注意しましょう。



① ひん岩の玉ねぎ状風化

1500万年前頃に海底に泥が堆積し、黒色泥岩のもととなりました。その後、地下でマグマが黒色泥岩に入り込んできて固まり、ひん岩になりました。ここでは、雨水の浸透や気温の変化などで玉ねぎの皮のように風化が進む現象が見られます。また、ひん岩に取り込まれた黒色泥岩も見ることができます。



② 銃座 (大和合)

明治28年日清戦争のあとの富国強兵の国策によって在郷軍人訓練のため、この和合の地に設けられた射撃場。この平らな一角を「銃座」と呼びここから実弾発射訓練が行われました。



③ 「どぶ」

良質の粘土がとれる地層です。古くからこの粘土を利用して屋根瓦造りが盛んでした。その原料である粘土を採掘した跡が大きな湖沼となって残り、地元の人は通称「どぶ」と呼んでいます。クロメダカ・ザリガニ・マブナ・ヘラブナ・コイ・クチボソなどが生息しています。



④ 吉向焼窯跡

江戸時代後期、日本でも指折りの陶工吉向が当時の須坂藩の要請により、吉向焼きを焼いた窯跡。発掘調査の結果、この焼窯は全長40m幅8mに及ぶ県下随一の登窯であることが判りました。



⑤ 鎌田山地下壕と地殻変動観測室

太平洋戦争の末期（昭和20年3月頃）、軍部が鎌田山に通信基地の送信所の建設を突貫工事で行いました。南北方向3本の横穴トンネルとその中央付近で横に連絡する一部未貫通のトンネルがあります。京都大学は昭和41年4月、鎌田山地下壕の跡を利用して、地殻変動観測室を設置しましたが、平成19年に観測は廃止されました。



⑥ 坂田神社

主たる祭神は健甕名方命（たてみなかたのみこと）。16世紀後半安土桃山時代の創建とされ、坂田村の産土神とされてきました。現在の社殿は嘉永2年老朽化したため再建されたものです。



⑦ 竜の割石

その昔、須坂のある池が干ばつで池の水が干上がった時、池の竜が坂田山の扇の入り地籍の清水を飲みにきました。大きな岩の下から湧き出すきれいな水を飲もうとして、この岩に爪を掛け割ってしまったと伝えられています。



⑧ 山寺跡

大字坂田字山寺。臥竜山興国寺20世瑞応和尚は、山門・経蔵など諸堂を建立した道徳堅固無欲の高僧として知られますが、年老いて坂田山のこの地に小さな庵を建て、身の回りの世話をする者一人を連れて引き籠り、日夜経を唱える生活を送りました。敷地内には湧水や池もあったと思われます。



⑨ 三峰神社里宮

昭和52年、坂田・南原町など近隣有志が集まり、三峰講を設立し、埼玉県秩父の三峰神社から御分身を頂き、坂田山山頂にお祀りし、地域繁盛を祈願しました。石造りの祠を山頂まで担ぎあげる作業に百数十人の有志が参加しました。里宮は日常の参拝に便利ように登山口に建てられました。



⑩ 天徳寺清水

昔から天徳寺清水として知られる名水。須坂の殿様も好んでこの水でお茶を点てたと伝えられています。今も天徳寺の庭に引かれて多くの人に愛されています。



⑪ 天徳寺

元禄7年(1694年)の建立とされ宝永4年(1707年)真言宗から浄土宗に改宗。本堂に阿弥陀如来が安置され、弘法大師像、聖徳太子像が安置されています。遠く江戸時代から坂田の村持ちのお寺として住民の心の拠り所として守られてきました。



⑫ 天徳寺筆塚

天徳寺山門の位置にある筆塚は、大きな自然石に「筆」と大書きされた一文字が、豪快に彫り込まれています。天徳寺寺子屋は向学心に燃えながらも学校へ行けない子供たちのために開かれたもので、今日の地域繁栄、文化と人づくりのため大きな役割を果たしてきました。

休憩所



⑬和合峠休憩所 ⑭お羽黒山休憩所 ⑮見晴らしの丘 ⑯共生の丘休憩所
休憩所

和合峠休憩所の設計は建築家・宮本忠長氏。ヨーロッパ中部の湖、レマン湖のほとりで見えた景色をイメージして設計されました。



⑰ ふれあい広場

防火貯水池で東京ダルマガエルやトンボやアメンボが見られます。

周辺案内

足をのびつちよつと

温泉



⑩ 須坂温泉・古城荘

宿泊・日帰り入浴ができます。湯量たっぷりの大浴場と露天風呂があります。



⑪ 福寿荘

宿泊・日帰り入浴ができます。弱アルカリ性単純泉で美人の湯といわれています。



⑫ 湯っ蔵んど

日帰り温泉施設です。6種類9つの大浴場と6種類の露天風呂があります。



「須坂風景」 ～鎌田山から須坂市街地を望む～ 吉田 博 作 1916(大正5)年制作 油彩